



日比谷交差点付近の浸水対策に

プレキャスト式 雨水地下貯留施設技術が活躍



完成間近のプレキャスト式雨水調整池

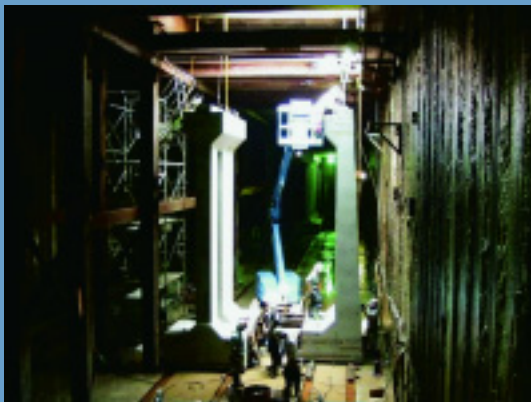
日比谷公園と皇居のお濠にはさまれた日比谷交差点付近は、地形的に道路上に降った雨が交差点付近に集まりやすいため、過去に数度の道路冠水等の浸水被害が発生していました。そのため、東京都下水道局では国土交通省と連携し、国土交通省が日比谷共同溝工事のために使用していた路下作業ヤードを活用して雨水調整池を建設することを計画、昨年度末に工事が完了しています。その雨水調整池の築造に下水道機構と民間企業が共同で研究開発した「プレキャスト式雨水地下貯留施設」の技術が採用されています。

この工法は、端部ブロック、中間部ブロック、頂盤ブロックで構成されるプレキャスト部材をそれぞれ吊り降ろし、緊結ボルトで結合した後、底盤部に現場打ちコンクリートを打設して築造するものです。この現場では、覆工板の開閉や重機の配置場所が制約され部材を吊りおろす場所が限定されていたため、投入した部材を路下ヤード内でスライドさせて設置する「ローラスライド工法」が採用されました。

できあがった雨水調整池は、巾9.9m×長さ47.7m×高さ6.8mで、貯留量は約2100m³。この施設の完成によって、同地区の浸水被害の軽減につながったばかりでなく、ここに貯留した雨水を活用して路面散水を行う施設も設置するなど、ヒートアイランド現象への対応も合わせて行われています。



雨水調整池（四角い印）が築造されている日比谷交差点付近



①部材を吊り降ろす



②ヤード内で仮組み



③スライド移動させて据え付ける

